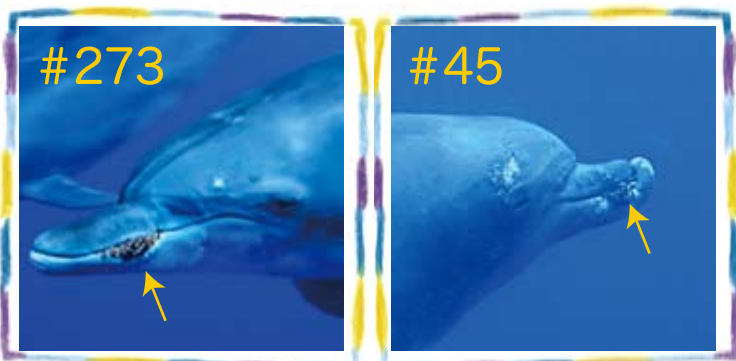


ミミエボシは夏に増えるのか？ ～モグオへの付着量の季節性を調べる～

「ミミエボシの付着量は、夏場の方が多気がする。」事務局長が写真を見ながらつぶやいた一言から始まった今回のおはなし。この疑問に答えるべく、イルカへのミミエボシの付着量が季節で変わるのかどうかを調べました。

ミミエボシ(学名: *Conchoderma auritum*)は、特定の鯨類に付着する蔓脚(まんきやく)類(フジツボなど)の仲間です(イルカ通信No.62参照)。小笠原のミナミハンドウイルカでも、個体識別番号#273(モグオ)や#45(シャクレ)の口に付着しているのがわかっています。今回は、ターゲットをモグオに絞り、ミミエボシの付着量を調べていきます。



付着量を調べるにしても、実際に重さを測ったり数を数えたりすることはできません。そこで、ミミエボシの付着部分がきれいに映った横顔写真を探して、ミミエボシの付いている面積を測ってみることにします。しかし、写真の映り方によって見た目の大きさもバラバラです。何か基準



となるものが必要になるため、それぞれの写真におけるモグオの口先から口角までの長さを「口の長さ」として、それに対する「ミミエボシの付着面積」の比率(「付着度」と定義)を求めます。この作業には、「ImageJ」というフリーソフトを使うことにします。このソフトでは、画像を読み込み、長さを測りたい部分に線を引っ張ることで、画像上の長さ(画素数)を測ることができます。同じように、線で囲んだ部分の画像上の面積(画素数)を計算することもできるため、なかなかの便利ツールです。

モグオへのミミエボシの付着を初めて観察した2014年以降で、解析に使える写真は計16日分ありました。それぞれで口の長さに対するミミエボシの付着面積比を計算したところ、一年を通して変動が見られました。11月から4月のデータ数が少ないため、はっきりとは言えませんが、どうやら、5月から10月頃までがミミエボシの付着量が多い傾向にありそうです。フジツボの繁殖時期は種ごとに違い、特定の時期に繁殖するものや、一年中いつでも繁殖するものもいるようです。季節性があるということは、繁殖時期が決まっているという事でしょうか。徐々にデータ数が増えていけば、もう少しはっきりとした傾向がわかりそうですね。

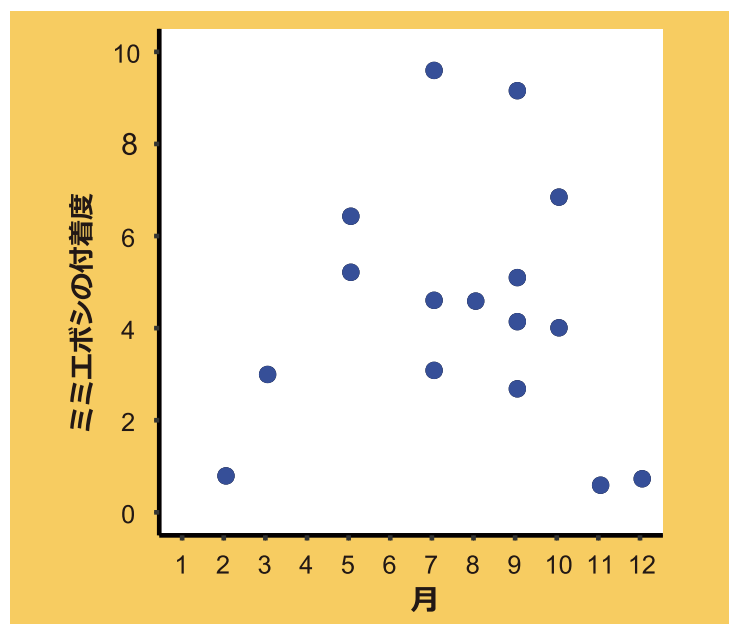


図. 月毎のミミエボシの付着度
5～10月にかけて高い傾向にある。